



Challenge Zero



ESG投融資とスチュワードシップ活動を 両輪とした脱炭素社会の実現への貢献

第一生命ホールディングス(株)

生命保険業界では、保険契約者からの保険料を原資とした資金を長期にわたり幅広い資産で運用する機関投資家(ユニバーサル・オーナー)として、ESG投融資やスチュワードシップ活動を積極的に推進し、地球環境問題への関わり方・姿勢を明確にする動きが多く見られる。

こうした中、ESG投融資とスチュワードシップ活動を責任投資の両輪として位置付け、地域や社会の重要課題の解決と中長期・安定的な運用収益の確保を目指す第一生命グループの取り組みを紹介する。

持続可能な社会に向けて、 ESG投融資を通じた課題解決に注力

第一生命グループでは、創業以来「一生涯のパートナー」をミッションとして掲げ、生命保険の商品・サービスを通じて顧客ニーズに応えるとともに、各時代の社会課題に向き合い長期資金を供給することで、持続可能な社会の実現を目指している。

特に気候変動問題は、他の多くの環境・社会課題にも大きな影響を及ぼす世界的に重要な問題であり、機関投資家として、中長期的な資産運用を行う中、同問題が資産運用ポートフォリオへ及ぼし得る影響は非常に大きいことから、グループ中核会社の第一生命保険では、「気候変動問題への対応」を責任投資の最重要テーマと位置付け、投融資を通じて温室効果ガス削減や脱炭素社会の実現に貢献することとしている。

こうした背景から、「気候変動問題の解決」に資する累計投融資が2021年度末に5100億円に拡大、2024年度末には9500億円以上を目指す。これに地方創生・地域活性化などを合わせたESGテーマ型投融資全体では、2021年度末時点で累計1.3兆円に到達。2024年度末には2兆円突破を目論む。

スチュワードシップ活動を通じて 投融資先のトランジション促進に貢献

世界の機関投資家の間では、より現実的な脱炭素の実現手法として、投融資先企業の温室効果ガス排出を段階的に減らす「トランジション」を支援する動きが広がっている。

第一生命保険では、2020年4月にESG投資の基本方針を策定以降、脱炭素社会の実現に向け、投融資先への深い理解に基づく対話であるエンゲージメントを基軸に当該企業の企業価値の向上や持続的成長を促すスチュワードシップ活動を加速している。

その一環として、同社は企業の長期的なトランジション戦略への支援を目的とする「トランジション・ファイナンス」に対する基本姿勢や考え方を示した。その中で、トランジションのための先進事例の収集・分析などを通じ知見を蓄積し、エンゲージメントを通じて企業のトランジション戦略の改善や取り組みの実効性向上を促すことを掲げている。

トランジションに向けた技術の開発、普及・実装に取り組む企業を支援し、環境と成長の好循環の実現を目指す同社の取り組みはこれからも続く。

なお、取り組みの詳細は、同社発行の「責任投資活動報告2022」をご参照ください。
<https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ri-report2.html>



(※)気候変動問題ソリューション投融資：グリーンボンド、再生可能エネルギー発電所関連事業への投融資など、気候変動問題の解決に資する投融資

(国内広報部主任研究員 山本哲史)